

特集

それ、分別しませんか？

～自然を守り、未来へつなぐ～



私たちの普段の生活で発生するごみ。それらの多くは、もともと天然の資源を使って作られた製品でした。紙やプラスチック、金属などを大切に使わなければ、将来、資源が足りなくなるかもしれません。また、製品の製造や運搬には石油などの多くのエネルギーが使われています。ごみを燃やすと二酸化炭素が発生しますが、

多量の二酸化炭素の排出は地球温暖化をもたらすし、人間だけではなく動植物にも大きな悪影響を及ぼします。私たちの住む地球の環境を守っていくためには、資源を有効に活用しモノを大切に使う、環境にやさしいライフスタイルへと転換していくことが求められています。

問 清掃センター ☎ 22-2734 FAX 24-7787
生活環境課 ごみ減量・資源化推進室 ☎ 30-6116 FAX 27-0395

地球を守ろう ～今、世界の環境への動きは～

国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の目標12「つくる責任 つかう責任」には11項目のターゲットがあり、その中に「2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。」という内容が掲げられています。



最近では、「地球温暖化」がさらに進んで「地球沸騰化」と表現されるほど大きな問題になっています。「ごみを減らす」、「リサイクルをする」、という行動が二酸化炭素の排出量を減らし、持続可能な社会づくりにつながります。



広報担当
森脇 麻美

彦根市のごみってどれくらい？

ごみ減量・資源化推進室職員に聞いてみた



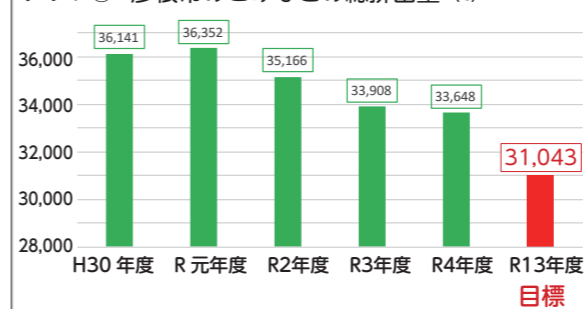
ごみ減量・資源化推進室
藤島 隆志

おしゃべりな方！

森脇：彦根市ではどれくらいのごみが排出されているのですか？

藤島：令和4年度の市民1人一日あたりのごみ排出量は**824g**（家庭系・事業系の年間のごみ量を人口と年間日数で割って算出したもの）でした。グラフ①を見てください。令和4年度の市全体の1年間のごみなどの総排出量は**33,648t**でした。これは、**25mプール約56杯分**相当の重さなんです。

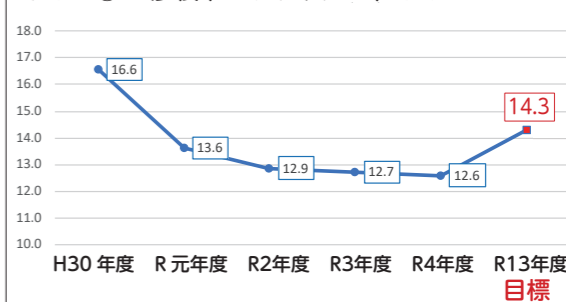
グラフ① 彦根市のごみなどの総排出量 (t)



森脇：とっても多いですね。でもグラフ①を見ると、令和2年度から毎年減少していますね！

藤島：そうなんです。でも、リサイクル率も同じように減少してしまっているんです。グラフ②を見てください。

グラフ② 彦根市のリサイクル率 (%)



藤島：リサイクル率は年々低下しており、令和4年度には**12.6%**となっています。リサイクル率が低下しているということは、**資源になり得るものもごみとして処理されている**ということ。つまり、その分処理するごみの量が増えているということになります。

また、令和4年度に要したごみ処理費用は合計で約19億7,215万円です。市民1人当たり換算すると、約17,600円にもなります。

森脇：なるほど！リサイクル率を上げることは、ごみの減量、環境への負荷軽減にもつながるし、お財布にも優しいということなんですね。

藤島：市では市民の皆さんと協力し、令和13年度には、**ごみの年間排出量を31,043t以下に、リサイクル率を14.3%以上**にすることを目指しています。

みんなで持続可能な社会をつくっていきましょう！

彦根市のごみのほとんどは清掃センターで処理されています



〈彦根市清掃センター〉

プロフィール

昭和52年 誕生 (現在46歳)
(平均寿命は約30歳)

現在 延命工事をしながらも
現役で稼働中

なんと！県内で稼働している
最も古い焼却処理施設なんです

彦根市のごみ処理施設のこれから ～燃やすごみを、燃やさない!?～

現在、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町の1市4町では、ごみを燃やすことなく処理し、固形燃料へと変える**好気性発酵乾燥方式**を導入した、環境への負荷が少ない新ごみ処理施設の建設を検討しています。

新ごみ処理施設（1市4町広域施設）供用開始までまだ時間がかかります。ごみを正しく分別し、燃やすごみを減らして施設への負荷を減らしましょう。